

## 会議録審議会等

審議会等の名称	平成24年度 第2回山口市環境審議会
開催日時	平成24年12月18日(火曜日) 10:00~12:00
開催場所	山口市不燃物中間処理センター 管理棟研修室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	中西 弘(会長)、伊原 靖二(副会長)、糸原 義人、上重 一枝、 浮田 正夫、木村 博、藺田 俊郎、東福 満徳、藤島 政博、前田 哲男、 前田 幸子、本永 秀夫、山本 翠  敬称省略・順不同(13人)
欠席者	なし
事務局	(環境部): 徳永部長、兒玉次長 (環境政策課): 飯田課長 総務担当: 田中主幹、磯崎主査 環境企画担当: 上田主幹、江村副主幹(兼新エネ)、杉本主査、 山村主査(兼新エネ) 地球温暖化対策担当: 田邊主幹、今谷副主幹(兼新エネ) 新エネルギー担当: 坂本主幹 (環境衛生課): 浦部主幹 (環境施設課): 小松主査 (資源循環推進課): 山田主幹、吉山主幹  (16人)
議題	○環境概要「環境基本計画年次報告書」(案)について ○その他 風力発電施設計画について 最終処分場整備に係る生活環境影響調査書について
内容	環境部長の挨拶の後、会長の進行により議事に入った。  <会長> それでは、本日の議長を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願 いたします。当審議会は、原則として公開し、議事録についても公表すること としていますが、これでよろしいでしょうか。  <委員> 異議なし。

<会長>

どうもありがとうございます。異議なしということで、当審議会は原則公開とし、議事録についても公表することとさせていただきます。それでは、早速議事に入りたいと思います。お手元の次第にありますように、本日の議題1の、「環境概要『山口市環境基本計画年次報告書』について」ですが、このことについて、事務局から説明をお願いいたします。

<事務局>

(環境概要の重要プロジェクトを重点的に説明)

<会長>

只今、事務局から「環境概要『山口市環境基本計画年次報告書』について」の説明がありました。御審議をお願いいたします。委員の皆さんから質問等がございましたら、挙手をお願いします。

<委員A>

非常に内容が濃いものになっています。農学の視点から述べさせていただきたいのですが、「環境から創る健全で恵み豊かなまちやまぐち」と、環境目標が設定されていますが、山口市はどちらかといいますと、都市環境の部分が強いですね。環境保全といいますと、中山間地域、農村部の景観、観光客が来ると仮定した場合、環境が優しい、環境がいい所ですよ。空間が保全されていて、そうした所へ観光客が来るのですが、環境は農業が衰退するにつれ、セイタカアワダチソウじゃないですが、雑草がドンドン、真ん中へ進行し、山が村へ入ってくる。そういう状況がありまして、山林化して行く。環境が悪化するわけじゃないととられれば、それまでなんです。田舎の景観を感じ取れる空間があればいいんじゃないかという気がしました。環境というのは、産業と別個で捉えていけばいいんですが、産業と環境は、すごく密接した関係で、農業が廃れていくというのは、環境が悪化するということで、そのつながりを加味するような形の思考が感じれるようになればいいかなと感じました。

10ページのイベント等での環境家計簿の普及、配布枚数が3,000から3,500枚で、かなり成績が上がった形ですが、3,500枚が果たして山口市にとって必要な部数であるか、山口市の全戸数が何万戸あって、その何分の1なのか、数パーセントかもしれません。その数パーセントが促進になるか、ならないのかという考え方、そこら辺をどういうふうに認識されているのか確認してみたい気がします。

それとエコドライブの促進ですが、イベントは素晴らしい施策が書いてあるんですが、私は市民としてこれは聞いたことがないです。おそらく知らない人は結

構っているのではないか、こういう人達に、素晴らしい内容を知らしめるためにはどうするか、そういう方法を知っていただくことも、脇役的なやり方として必要なのでは。目標通りいかない項目もあつたりするんですが、原因を踏まえたうえで、新たな対策を取らないと実際に悪くなりましたというだけでは。例えば、15ページの分別リサイクルの推進が悪化している。悪化している原因が、何かということをお教えいただければ助かります。

<事務局>

まず、初めの環境と産業の結びつき、とりわけ農業との結びつきですね。重点プロジェクトのみの説明になりましたので、不十分な所もある訳ですが、各施策別の基本目標の中においては、中山間地の振興という部分も加わっております。その辺でご理解をいただければと思います。林業振興の視点、農業、特に食料自給率の問題にも触れておるところでございます。環境基本計画は環境分野の総合計画でございます。そうしたところから網羅はしている状況でございます。

環境家計簿につきましては、イベントを通じた配布物ということで種々の環境イベントの中で配付をしています。学校等にもお願いをしていますが、配布ということで、実際に書いていただけたかとなりますと、現実にはもっと少なくなるのですが、全国的に環境家計簿というのは、成功事例が極めて少ないという状況がございます。その一つに、一定期間チェックをしていただくという面倒くささがあります。それからガスであったり、電気であったりを書いて提出するというので、家庭のデータベースを人に晒すような面もございます。ですから、取り組みづらいという事実もございます。しかし、やはり実効性が上がる形で、ただ撒いただけでなく、市全体の何パーセント撒いたというのも、もちろんありますが、今後どうしていくのかという意味と啓発を含めまして効率性、実効性をあげていくのが課題ではないかと思っております。改めて検討して参りたいと考えています。

それからエコドライブについてですが、どうしても1回あたりの人数に限られてきます。1回あたりが15名なんです。一応、広報等いろんなチャンネルを使いまして、開催案内はさせていただいています。その辺の案内は不十分ではないかなと思っておりますので、改めて検討をしてまいりたいと考えています。

リサイクルと分別の指標が落ちているということですが、これにつきましては、平成22から23年度、特に考えられるのが国体の関係、これは県内の各市町村に問い合わせをして、ゴミの量とか、23年度にどこの市町村もなぜか増えており、原因をどう考えているのかを確認しているのですが、なかなか分かりにくいということもあります。それと23年3月11日に東日本大震災が発生をいたしまして、これに伴い外食されていたものが、家庭で食事をとられる、こういったゴミの量、あるいは、ダイレクトメールとかいった物も考えられると思います。

いずれにしてもゴミ袋の手数料も上げまして、みなさんに分別の説明等を行いながら、ゴミの減量、可燃物に含まれるゴミの分別、3分の1は紙等が入っ

ているという現実もございますので、可燃物は燃えるゴミ、資源物は入れないように徹底して、説明会を含めて、取り組みを行っているところでございます。分別の周知徹底をして、全体のゴミの量を減らしていく取り組みを進めていくところでございます。

<会長>

山口市も合併によって広くなり、農村地域のこともあるでしょうし、都市域だけでなく農村地域の問題も重要になってくると思いますので、よろしく願います。他に質問はございませんでしょうか。

<委員B>

10ページのカーボンオフセットですが、5月と9月で単価が違いますね、これはどういうことなのかということと、CO2 当たりの単価が5月が5,000円ぐらいで、9月は2,800円ぐらい。それから、13ページの都市・農村交流人口の単位を見てびっくりしたのですが、195万人と非常に大きい数字ですが、どういうふうにした数値なのかということですね。

18ページですが、BDFの精製量の件ですが、これは収集車が減少しているからという説明だったと思うのですが、BDF化を進めるのであれば、BDFを使える物を増やすという発想になるのではないかと思うのですが、なぜ逆の発想になるのかということ。

リサイクル率が35%、これは高いと思うのですが、目標は40%ということで、24年度は高めになっているんですが、これを達成するための手立てをどういうふうにご考えられているのかということですか。

<事務局>

カーボンオフセットの取り組みですが、23年度は2回行ってございまして、1回目は青空天国いこいの広場です。これにつきましては、先程、指摘のありました単価ですが、単価は1トン当たり3,000円が目安になっています。募金額によりその額を割り切れないということもありまして、後は受け入れる団体との交渉になります。その時々で変化して参りますが、目安は3,000円です。その関係で青空天国の場合は量も少なかったということもあります。9月の国体の方は、募金額も多かったということから、適正な規模、3,000円の相場の中で推移しています。

<委員B>

ちょっと仕組みが理解できていないところがあるんですが、この募金が集まり、そのお金で、何か今ある事業で削減できて、何万円かかるということですか。何かメニューがあって、そこから選ぶ形になるのでしょうか。全体的にCO2の相場

が下がってきているということも聞きますけれども。

<事務局>

カーボンオフセット、特に国体の場合は、国体で発生する電気量等を試算して、CO2 に換算すればこのぐらいになるだろうという目標設定をします。それに応じた募金という形になりますので、実際は目標と募金額が乖離するということになります。

<委員B>

そうすると、その集めた募金はどこへ行くんですか。

<事務局>

県のカーボンオフセット市場というのがありまして、そこを経由して相手先へ。国体の場合ですと徳佐小学校と雙津峡開発というところへ行くことになります。青空天国いこいの広場ですとBDFを使用しているリングさんの方へ行く、その分のCO2 を買い取った形になります。

ご質問の中の、都市交流人口ですが、これにつきましては、道の駅等、都市と農村を結ぶような拠点の人数があがっているということです。

さらに、BDFについては年々減少している、逆に見直して増やすべきというご質問でしたが、これは民間でのBDFの精製はしておられるということでございます。そういった所の状況も踏まえながら、民間にあまり影響していかないようにというのもあります。ただ、家庭からの回収は行っていますので、車で使えるものは使用して、そうでないものは民間の方へ多少お分けて、有償になりますが使っていただくという取り組みも行っています。

リサイクル率ですが、高い数値ではありますが、29年度で40%になっていますが、これにつきましては、資源物が出しやすく24時間排出できる資源物ステーションを総合支所単位で設置していきたいと思っています。それと民間と協働した、スーパー等の駐車場での資源物の回収、地域団体が資源物を回収する地域協働型等の排出しやすい環境を整えていくこと、当然リサイクルの啓発もしっかりしていくということで、リサイクル率40%に近づけるよう努力していきたいと考えています。

<委員B>

生ごみの中の水分が非常に多いので、分母が非常に大きいですね。40%の目標は非常に厳しいと思うのですが、土を利用するコンポストとか、要するなるべくゴミ収集に出さないとかは、リサイクル率に入らないですか。大事なことになるので、実際に行けるのではないかとということを研究していただきたいのですが。

<事務局>

ご指摘のありました、生ごみを出さない、生ごみの水きりにつきましては、ゴミ袋の表示の部分で、「生ごみは水を切って出しましょう」と、赤い表示が入ったゴミ袋を6月から作っています。生ごみを出さないということであれば、環境概要の15ページにあります、家庭用生ごみ処理機の購入補助を継続しています。生ごみ処理機の値段が高くなっているため、補助金額の上限も高くしていかないといけない等の対策をしたり、市報等での啓発といった取り組みを考えているところでございます。

<委員C>

質問というよりは意見なんですけど、3点ほど述べさせていただきたいと思います。一点は大気環境のところでは窒素酸化物やダイオキシンの問題に触れられていますけれども、市として主体的に対処できる部分と、世界的な問題なので、これは対処が難しいという点があると思います。そこは山口市として身近な部分から対処できることのウエイトを上げてもらえればと思います。ダイオキシンが増えていますよ、悪化していますと書いても、原因に触れないと、山口市はダイオキシン駄目なんですね、という印象をもたれると思います。それは、再生可能エネルギーが全量買取になりましたので、当初の目標より急激に解消されますよ、素晴らしい太陽光発電システムがあるのですが、その中で山口市としては、より良くできるのに隠れているような気がします。

それから先程、環境家計簿の話がありました、あと環境マネジメントシステムの普及とかあるんですけど、これらは、あくまでツールだと思います。大切なのは具体的にどういうふうに取り組むかだと思います。そういう理想を立てたようなものならばいいと思います。

最後に3点目ですが、この中に学校における環境教育のページがかなり割いてあります。これは一例として話をするのですが、植物を植えましたというのをあげるのは、学校の立場からすればいいのかもしれませんが、広い観点から見ると、子供たちが蛍を増やしましたとか、川のゴミをきれいにしました、秋穂は海岸もありますので、夏の前はきれいな海にして帰ってとか、身近な活動をしていただくと、子供も社会に出て、身になる気がします。

<事務局>

3点の意見ですが、一つ目の大気環境の件、窒素酸化物ですが、市が出来ることといえば、指導・啓発が多くなると思います。具体的に施策をやっていくようになりますと、かなり絞られてくるというのもあります。どの程度のことができるのかは、もう一度、整理する必要があると思います。基本的には啓発が主体になるというのはご理解をいただきたいと思います。

それから、環境家計簿、あるいは環境マネジメントシステムの関係でございま

ですが、確かにこれらはツールでございます。実際に環境家計簿は取組んでいただけないとどうにもなりません。環境マネジメントシステムにつきましても、システムを作っただけでなく、どういうふうに運用をしているのか、当然PDCAサイクルというのはありますけれども、検証をしていくことが重要であろうと思います。しかし、レポートには取れる指標が限られてきます。実際に民間企業の運用状況の把握をしていくというのは、難しいと考えていますので、指標においてはどうしてもこういう状況にならざるを得ないということになりますが、なるべく身近に、見えるような形には持って行きたいと考えています。しかし、現状はなかなか難しいというのもご理解いただければと思います。

それから、学校教育の具体的な取り組みにつきましては、後ろの92ページに学校における環境学習として記載しておるところでございます。そちらをご覧くださいいただければと思います。

#### <委員D>

1点は家庭用生ごみ処理機の補助の件ですが、電動生ごみ処理機の補助ですが、1軒につき1回というのは決まっているのでしょうか。うちは一番最初に生ごみ処理機の補助を貰って買いましたが、もう壊れてしまって、再度買い替えなくてはいけなくなっていますが、1軒で2回の補助が受けられるのかどうかお聞きしたいのです。このようなケースで、どうしようと思われている方が結構いらっしゃるのです。やはり、自分の家で生ごみを処理していたのですが、今は、全部市の方に出しているのですが、量が増えています。出来るならば、自分の所で処理をしたいと思っています。

もう1点は、バイオディーゼル燃料のことです。小郡の鍛冶畑に精製をする施設がありますが、この稼働率がどのぐらいなのかをお聞きしたいと思います。私も長い間、見学に行っていないので気にはなっていたのですが、使用できる車両が減少しているので、指標に見直しの検討というのがありますが、それで食料油の回収をしているというPRが無いのかと思ひまして、知っているものだけがコツコツ持って行って出しているという状態が続いていると思います。これは気になっていたのでも教えていただきたいと思っています。

#### <事務局>

生ごみ処理機の購入補助の件についてですが、電動生ごみ処理機の購入補助は1世帯に1台まで、微生物分解型コンポストは1世帯に2個までとなっていますが、各家庭で使われている中で壊れたりした場合、2台目の補助はできますので、言っていただければ対応できます。

廃食油BDFの精製ですが、23年度1ヶ月あたりの回収量が約1,000ℓでございます。ひと月当たり生成する量は、その内600ℓ精製しております。ですから、稼働となりますと、月に600ℓ精製する稼働ということになります。精

製したBDFにつきましては、市のパッカー車に使用していますが、最近のパッカー車は燃料を電子制御しているということで、今ありますBDFを精製したものではありません。ですから、昔の車両に使用しているという状況であるという点と、先程、説明をしましてとおり民間事業者には有償でお譲りして、BDFを精製していただくということも行っております。今後、使える車両が減っていく中で、他の民間での活用も含めた、廃食用油の回収ということは、改めて検討していきたいと思っております。

<委員E>

9ページのマイカーによる二酸化炭素の排出量についてですが、他の項目によれば目標を達成しているところもあるんですが、マイカーについては、遅れていると言いますか、それにより更なる取り組みが必要ということですが、そこに例が挙がっていないもの、どういうものがあるのか、どういう考えがあるのかを教えてくださいのと、カーボンオフセットは、何か大会があった時にということですが、数多く開催できるのかを教えてください。

もう1つ、10ページにあります、ISOやエコアクションですが、いったいどれが増えているのか、エコアクションが増えたのか、それとも別のものなのかを教えてください。

<事務局>

3点のお尋ねで、まず車の関係ですね。CO2の排出の関係でございます。今、こちらの方には、エコドライブという形で出していますが、それ以外につきましては、ノーマイカーの啓発であるとかが主となっています。いずれにしても、車の利用を減らすということになる訳ですが、公共交通の充実等、もっと言えば歩いてくるまちづくり等、大きな視点が必要になろうかと思えます。どうしても、車を減らすということは、生活の利便を、歩いてこらせるようにもっていく必要があると思えます。単に環境という視点だけで車を減らすということを考えますと、無理があるのではないかと考えます。交通政策であったり、健康づくりも、歩きましょうというのもありますし、ウォーキングも流行っています。それから、もちろん環境分野の話もあります。総合行政の中で車を減らしていくというのが、重要ではないかと考えています。

それから環境マネジメントシステムの関係ですが、御指摘のとおりエコアクションにつきましては、県立大学さんの協力もありまして、伸び率が大きいところでもあります。反面、ISOにつきましては、多少斜陽になっておりますというところが考えられます。一応、総じて、結果として伸びてはいますけれども、小分けに考えますと、経費が少なく、軽い環境マネジメントシステムというのが、主流になっているというのが現状でございます。

カーボンオフセットについてのお尋ねですが、大規模イベントを中心に、実際



の主体は山口市地球温暖化対策推進協議会「とめるっちゃネットワーク山口」というのが主体でやっていますので、共同して決定し、大規模イベントを中心として取り組んでいきたいと思えます。補足でございますが、環境マネジメントシステムの内訳につきましては、25ページにエコアクション・ISO・グリーン経営認証の内訳を掲載していますので、これで推移は確認できると思えます。

<委員F>

公園や小学校の太陽光発電システムの外灯が付いていると書いてありますが、蓄電池が無いと夜は光らないのではと思えますが、時計なんかは付いているようですけれど、その辺りはどうでしょうか。

<事務局>

蓄電機能があります。

<委員B>

委員Aからも意見があったと思うのですけれど、中間点での見直しがあってもいい気がするのですが。

<事務局>

事務局で検討させていただきたいと考えています。

<会長>

それでは、意見も出尽くしたと思えますので、「環境概要（山口市環境基本計画年次報告書）について」は、以上とさせていただきます。

次に、風力発電施設計画について、事務局より説明をお願いします。

<事務局>

（風力発電施設計画について説明）

<会長>

ありがとうございます。只今の説明についてご意見がありましたらお願いします。まず、先般、風力発電施設を現地視察された委員さんがおられますので、御意見や御感想あれば承りたいと思えます。

<委員A>

私も出席させていただきました。最初は課題があるのでは思っていたのですが、実際に見まして、そんなに大きな課題は無いのかなと思えました。

今日いただいた資料の中で、住民側のメリット、市側のメリット、住民理解の

項目で説明させていただきますと、経済効果ということになるかと思いますが、実際には豊北では2年間の風況調査をして21%の利用率で計画したが、実際には15%だった。経済的にはリスク問題で、会社側の負担なんです。住民負担、市の負担は無いということです。

住民のメリット、市のメリットといいますと、白滝山の方でみると、地元経済の活性化に寄与しているとお聞きしました。豊北の方では地元雇用という点では期待外れでしたが、白滝山は何かあると、平均すると少しは生まれるのかなと。

住民理解の点ですが、白滝山の方は対策が充実していて地元住民との対話、大きな課題がクリアできているということでございまして、個人的な感想としては、プラスマイナスを考えて、個人的にはプラスの方で、産業の面からもプラスに作用するのかなという印象を受けました。

<会長>

どうもありがとうございます、他にありませんか。

<委員G>

私も参加させていただきました。私も感じとしては、割といいと思いました。住民には聞けなかったのが本当のことは分からないのですが、反対ののぼりも無かったので大丈夫かなと思います。

ただ、気になったことがありまして、取付道路の件ですが、特に白滝山の方ですが、山が高いんです。そうすると取付道路は長くなります。傾斜もありますし、側溝も付けてあります。当然、山水もそこへ流れます。20番の風車の所で説明を聞いたのですが、私はちょっと外れて道路を見ていました。その道路の排水溝が山側にあるんですが、切土をして道路をつけています。切土の下に溝をつけて、その水は山の下に流れていく。何が気になるかと言いますと、その側溝が道をまたいで、山の崖の方へ行く。当然、崖の方に流れる水は浸食をしますから、上部は石組みで止めてあるんですが、下の方を見ますと山肌そのものなんです。途中にもあるかなと思って、バスの中から見ていたんですが、なかなか見にくくて、良く分からなかったのですが、道をまたぐ側溝があって、それが山へ流してある。それは大雨が降ると水が入ってきますので、山肌を流れていくはずですが。何が起こるかと言いますと、泥水が出るわけです。場合によっては山崩れが起きる。もう一つは、側溝は一番下までありまして、おそらく小さい小川につないであると思います。その確認はしてないですが、昔の雨は1時間に50mmから60mm降れば大雨ですが、今は100mmは降るんです。その水が流れると洪水になるかもしれない。そういう対策をしないといけないのですが、そういう監視をしていかなければならないので、できるかどうかと思いました。

<会長>

どうもありがとうございます、他にありませんか。

<委員B>

今の意見ですが、林地開発許可の段階で、十分な道路の構造とかチェックされるかということだと思のですが、非常に大きな問題と思います。

それから、高い建物なので明かりが点いています。その明りに誘われて昆虫が来る、昆虫を食べにコウモリが来るとかですね、そういう状況はどうだったのかなと気になりました。

<会長>

どうもありがとうございます。それはまた課題にしておきましょう。

他に率直な意見がありましたらお願いします。

<委員F>

白滝山の方は、作られたのが建設会社ということで、いろんなことが起きた時に対応できる会社だと思いますが、山口市にできる会社やIT企業が、あれほどの管理ができるのかなということと、また登山道、林道がすでにあったというんです。白滝山の方は。しかし、野道山へは下の方しか道はありませんので、これから先、作っていく時にもそういうことがかなり起きると思います。あれほどの集中豪雨が起った時に、どこが責任を取るのかなと思ひまして、大家さんが責任を取るのか、持ち主である山口市や、個人の方が直さないといけないのか。責任はどこにあるのかと思います。私たちの想像を超えるようなことがおきるかもしれない。それが心配です。

<会長>

ありがとうございます。いろいろ課題があるようですので、これは建設に際し、山口市の方で折衝をしていただきながらと思います。

事務局の方で何かありますか。

<事務局>

ただ今の質問ですが、取付道路の話もございましたが、業者さんの方に対して、資料提供という形で4点ほどお願いをしました。その中で、崖崩れ及び土砂流出の恐れのある地域への対策ということで質問をいたしました。取付道路の標準断面図であるとか、いろいろな資料をいただいています。こういった資料を市の方でも精査をいたしまして、安全面は非常に重要と考えていますので、引き続き研究して参りたいと思っております。それからサル・イノシシ・クマの最終的な移動状況の予測にあたっては、哺乳類の行動学を専門とする知識者の意見を伺うという回答をいただいています。ただ、コウモリに関しましては想定外で

したので、今後、事業者の確認を取って参りたいと考えています。

<会長>

はい。他の質問はありますか。

<委員D>

私も見せていただきましたが、白滝山の方はきんでんさんが、住民の理解を得るために、長い時間をかけて密着されて、住民の方に寄り添いながらやっておられるので、うまくいくのかなと思いました。

今のところ、海の中に作る風車が一番負荷が少ないと思いますし、作る方として作りやすいと聞いています。そのことがとても気になっていまして、業者さんが言われる作り易くて、負荷が少ないということができないのか。山口県は海が三方にありますので、できれば山の中の自然を壊したり、災害の危険を感じながら作っていくよりは、負荷の少ない海へ出来たらいいと思いました。

それから買取期間終了後の対応が気になります。もちろんお約束はきちんとなさると思いますが、採算がとれなくなると撤退されるのではという不安があるんです。その場合、撤退される時もきちんと自然を元に戻すような形で撤退されればいいのですが、羽だけ、柱だけというようなことを言われると後に残されたものは、自然にとってどうなのかという不安があります。視察に行って、業者さんから一方的に話を聞いただけなので、住民の方の生の声を聞ければ良かったと思います。

<委員C>

私も見させていただきました。非常に参考になりました。感想ですが、今回、ジャネックスさんが建設される計画を見ても、道路のウエイトが高いと思います。これだけの開発をするのに、単に風力発電だけでは、もったいないと感じました。何かと言いますと、森林の方の間伐材の搬出とか、バイオマス産業だったら、これとリンクして、切り出してバイオマスに使うとか、強いては観光的な施設も入れて、子供たちの教育に利用するとか、一つの方は果樹園があったんですけども、単独ではなくミックスしたようなものになるとおもしろいと感じました。

<会長>

ありがとうございます。いろんな多目的な計画もいいと思います。

<委員E>

私も参加させていただきましたが、自然エネルギーの普及の観点から、やっていかなければならないと思いますけれど、先程からいろんなものが出ていますが、業者側からの意見で、私が気になるのは騒音・低周波・電波障害です。近くに行

くと確実に音は聞こえますので、変電所の辺りでも聞こえてきますので、最初だけではなく、特に、夜に騒音・低周波の測定をして欲しいと思っております。それと、撤退した後、会社が駄目になるとか、20年という長い期間ですので、どう対応をしていくか、保険とか入るんでしょうか。その辺りも考えておかないと、設備をそのままにされたり、問題があるのではと思っています。

<会長>

ありがとうございます。他にございませんか。それでは風力発電施設計画について、委員の皆さんから色々な意見をいただいています。当審議会といたしましても、それを踏まえて、今後も経過を見守っていきたいと考えております。

それでは、最終処分場整備に係る生活環境影響調査について、説明をお願いします。

<事務局>

(最終処分場整備に係る生活環境影響調査書について説明)

(生活環境影響調査書に対する住民の意見及びそれに対する見解について説明)

<会長>

生活環境影響調査結果についての説明がありました。これを踏まえまして、意見、質問等があればお願いします。

住民意見で、走行ルートの変更が何件かありますね。それに対しては、見解を見ましたが、取りまとめられた中で十分に対応するという事で解釈してよろしいですか。

<事務局>

工事用道路の走行ルートということで、地元の皆さまから懸念が示されています。これにつきましては、県の方と協議しまして、側道を通らない形で、仮設の道路を作ることで、協議が整いましたので、地元の方へも説明をしまして、了承を得たという状況でございます。

<委員G>

できた後の話ですが、生物学的にチェックが必要という話をしまして、池を作ったらと私がいいましたが、どうなりましたか。

<事務局>

魚を飼うという話だったと思うのですが、今後、建設同意を得ましたら、次の段階として実施設計に入ります。その中で検討させていただきたいと考えていま

	<p>す。</p> <p>&lt;委員B&gt;  住民意見では、工事用の道路についての意見が多かったのですが、どういうふうなルートか具体的に見えないので、もう少し説明をしていただければと思います。</p> <p>&lt;事務局&gt;  （図面を広げて説明）住民の要望といたしまして、なるべくきらら道の側道を通らないようにということで、浦辺インターからずっと側道を通るのではなく、工事期間中に限り、きらら道から直接側道に入るような仮設道を作りまして、すぐに候補地の方へ入れるような形にして、また、候補地から出た工事用車両も、ずっと側道を通るのではなく、高低差の少ない所で仮設道を設置しまして、直接きらら道へ乗り降りできるような形で、なるべく地域への負担が無いように計画しています。</p> <p>&lt;委員B&gt;  稼働後も同じルートになるんですか。</p> <p>&lt;事務局&gt;  稼働後の廃棄物運搬車両につきましては、工事中と違い、1日に1～2台程度になりますので、そちらは側道を、生活環境影響調査書のあらましの4ページのルートを通ることになります。</p> <p>&lt;会長&gt;  他にございませんか。よろしいですか。特に質問が無ければ、この件はこれで終わり、本日の審議を終わりたいと思います。これからの進行は、事務局にお返しいたします。</p> <p>&lt;事務局&gt;  委員の皆様、お疲れ様でした。いただきました意見につきましては、今後皆様の意見を仰ぎながら、環境行政の推進に努めて参りたいと思います。  本日はどうもありがとうございました。</p> <p>以上で会議を終了した。</p>
<p>会議資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成24年度第2回山口市環境審議会次第</li> <li>2 環境概要「環境基本計画年次報告書」(案)</li> <li>3 風力発電施設視察資料</li> </ol>

	<p>4 株式会社ジャネックス「三ツヶ峰ウインドシステム発電事業環境影響評価方法書」に対する経済産業省からの勧告文書（写）</p> <p>5 山口市一般廃棄物最終処分場整備に係る生活環境影響調査書のあらまし</p> <p>6 生活環境影響調査書に対する住民の意見及びそれに対する見解</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>環境部 環境政策課 環境企画担当</p> <p>TEL 083-941-2180</p>